

<手根管症候群>

手根管症候群とは手の平を構成している手根骨と靭帯で出来たトンネル内で神経が圧迫・絞扼されしびれや痛みが出る障害の事を言います。

原因としてあげられるのは、手首を酷使う人や関節リウマチによる滑膜の炎症、人工透析患者のアミロイド沈着などで起こることが多いといわれています。また、女性に多く発症し、妊娠中・閉経後に発症することから女性ホルモンの関連もあるといわれています。

初期の症状として、人差し指・中指のしびれ痛みが多く、このしびれ痛みは、夜間特に明け方に増強するのが特徴です。また、手首の圧痛が認められ、指の知覚異常、筋力低下は進行に伴い出現します。

慢性化すると母指球筋の萎縮も認められることがあります。

治療法として、しびれ・痛みあるいは夜間痛の軽いものは炎症を止める注射をしたり、関節固定装具などの保存療法で回復が期待できます。

妊娠などホルモンが原因と考えられるのはその時期が過ぎれば回復することが多いです。しかし、明らかに筋力低下・筋萎縮が出現しているものや、手根管内に骨性の異常があるものには保存療法より手術療法が選ばれます。

患者様の状態・状況にあった治療法を考え治療を行いますので、気になることがありましたら一度診察へ！